

原村の地域おこし協力隊が発行するかわらばんのことです。

原村で暮らす、おもしろくて素敵なひとを紹介します。



12/21(金)

ハケ岳クリスマスコンサート
0歳から108歳のこどもたちへ 2018
デリ&カズ「K」にて
開催します♪



「ハチモット 編集長」 堀之内 通子さん (43)

東京都出身。大学で哲学を学び、医学雑誌の編集者として働いていたが、2011年の12月に原村へ移住。現在は八ヶ岳をもっと楽しむためのWEBメディア『ハチモット』の編集長を務める他、星空の映画祭実行委員、レストランKの運営、各種イベントの企画、翻訳、朗読会の主催等、多岐にわたり活躍される。二児の母で、みんなから『みっちゃん』と呼ばれ慕われている。

有機的な繋がりと多様性に満ちたライフスタイル



2011年に東京から原村に移住する前から「星空の映画祭」実行委員だったみっちゃん。年間200本もの映画を鑑賞するほど映画好きなのだと言う。

東日本大震災を東京で経験し、当時、4歳の長女が通っていた保育園の水道水

からセシウムが検出され、自然豊かな土地を求めて原村への移住を決めた。

その選択をした根底には、みっちゃんが自身時代にアメリカのニューメキシコ州にあるネイティバ・アメリカン居留地に自らの身を置いた経験があった。

先住民族の暮らしに興味を抱き、日本文化を伝える先生として居留地に入り、日本の最先端の文化を教えるつもりでした。だが、そこに住む人々からは教わるばかりだったと語る。「ミチコは日本の東京から来たのに、木とも石とも話せないの?」と言われてびっくりしました。彼らは自然の一部としてそこに居るんです。」と話し、文字や概念を必要としない彼らの生き方にただただ驚き尊敬したと言う。たとえ苦しい出来事があつても、それ大きな流れの一つでしかなく、自分自

身も大きな宇宙の一部だということを教わったのだそう。原村に移住し、過去に落とした点と点が繋がり線になる経験を沢山し、全ては繋がっているのだという事を身をもって体験したと確信を持つて語るみっちゃん。

八ヶ岳に暮らす人々の有機的な繋がりは、都会では実現しづらい多様なライフスタイルを表現でき、とても面白いと感じたそう。その面白さを『ハチモット』を通じて多くの人に知つてもらいたいと話す。「いま書いた記事が、時を経て誰かの心に触れ、そこからまた新しい何かが始まるかもしれない。そんな風に考えるとワクワクするよね!」と話し、未来に繋がる今、この瞬間を精一杯生きるのだということを教えてくれた。

有機的な繋がり、惜しみない献身、種を蒔き、目に見えないものを待つことができる力を持つのは女性と話すみっちゃん。全てを受け入れる母なる大地を魂に宿すその心に触れるごとに、自分の中の余計なものが剥がれ落ちるように、涙が溢れるのを抑えることができなくなるのだ。

